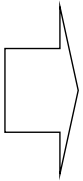


令和6年度 嬉野市教育委員会 教育基本目標評価シート

嬉野市民ワクワクデザインⅡ 令和6年(社会教育)					
具体的活動	教育委員会における自己評価				
	評価	項目	項目ごと実績・成果・評価	課題・問題点	改善点
(1)図書館サービス推進事業	B	・県主催の研修等を活用し職員の研鑽を深め、窓口や電話での接遇、レファレンス、バリアフリーに係るサービスの質の向上に努めることで、利用しやすい読書環境を整える。 ・図書館行事や図書館利用、読書活動推進月間、ホームページの利用者サービスについて、ホームページ・「図書館だより」等を活用した迅速な情報発信の促進に努める。 ・配本や巡回とおして、学校や幼稚園・保育園等の他団体、遠隔地区の利用者等との連携をとりながら、本に親しむ読書環境づくりの推進に努める。 ・市民サービスの向上の観点から、各種行事や事業を実施する。またボランティア団体等、他団体や地域との連携を強化し、市民参加による図書館運営を目指す。	・職員等の研修機会を確保し、多様な研修を受講し復命することで、窓口対応等の接遇向上、レファレンスの質の向上に活かすことができた。 ・HP、図書館だより、防災無線等を活用し、情報提供を迅速に行った。 ・配本や巡回を通して、幼稚園・保育園や学校等や各団体、遠隔地区の利用者等への読書環境づくりの提供に貢献できた。今年度は嬉野看護学校の生徒へ図書館の活動を紹介したり、不登校ぎみの児童・生徒へのブックコネクト事業を展開するなど新しい事業にも取り組むことができた。 ・他の団体や学校への取り組みを拡充できた。読書活動推進月間の行事や作品募集等の取り組みを司書を中心に行い、読書活動推進月間の周知にも繋がった。	・研修の参加に努めたが、他の行事等と研修日が重なり職員不足が生じたため参加ができない研修等があった。 ・ホームページや図書館だよりでの情報提供に努めたが、行事等への参加者の増員には至らなかった。 ・年少者から高齢者まで巡回図書等で読書環境の提供に努めているが、配本冊数の増加等要望もあり職員の業務量が増えている。また、新たな施設への貸出要望が増えている。 ・今年度からの新たな取り組みを行ってみたが、読書活動推進月間の行事等や時期的な都合により職員への負担が大きくなっている。	・職員等の研修機会のバランスを取りながら、勤務日を調整し研修機会を確保したい。 ・ホームページや図書館だよりで情報提供しているが、SNSの活用や周知により広報に努めたい。 ・利用者のニーズや学校行事の日程等把握しながら、利用者が参加しやすい行事の設定に努めたい。 ・読書活動推進月間の取り組みを年度当初から企画準備しながら、今後定着していく行事や新規の企画等精査していきたい。また、利用者の要望を取り上げていきたい。
(2)文化財の保存・活用事業	B	①国天然記念物「嬉野の大チャノキ」について、令和2年度からの取り組みにより、改善された点（葉の数や新芽の伸長量の増加）もあるが、萎黄病の発症は依然として確認されるため、今後も継続して事業に取り組み、樹勢回復に繋げる。 ②「塩田津まちなみてらす」を活用しながら、歴史や写真、地域の取り組みについての公開整備を行う。 ③伝統的建造物群保存地区における家屋や石垣、塀の保存修理について業務を遂行し、塩田津の景観保全と地域住民の生活環境の向上、観光活用に繋げる。 ④埋蔵文化財と開発行為の調整について事業者と連携し、埋蔵文化財の保存と活用に努める。 ⑤防災の観点から災害痕跡を発見した場合は、市役所防災担当課との情報共有を図る。 ⑥ほっとステーションによる、市内指定文化財等の案内を行う。 ⑦伝統芸能の保存継承のため、無形民俗文化財である「蛙川内の綾竹踊り」についてデータでの記録保存を行う。	①これまでの再生事業の成果を基に継続して取り組み、専門部会や文化庁調査官からの現地指導・助言を受け、新たに根の伸長を促すために土壌改良に取り組んだ。 ②「九州市長会」や「水源の里シンポジウム」「大村市教育委員会との意見交換会」などの行政視察の際に開放し、活用した。 ③家屋修理2件及び工作物（石垣・塀）の修理修景について、計画的な事業の遂行に努め、2月末に修理・修景を完了する予定としている。 ④検索システムを活用しながら、迅速かつ正確に埋蔵文化財包蔵地の確認ができ、事業者への指導も円滑に行うことができた。 ⑤市指定文化財及び伝建地区内の環境物件（樹木）について、倒木の危険を未然に防ぐため、新たに樹木診断調査を実施している。 ⑥7月に「唐泉山の椎の天然林」について、ケーブルテレビやyoutubeでの放映を実施した。 ⑦「蛙川内の綾竹踊り」について11月に撮影を行った。年度末までにデータ化し保存する。	①葉の葉緑素の測定結果では、場所によっては一般茶園の葉緑素より高い数値が一部確認されるなど樹勢回復の効果は出ている。 ②さらなる公開活用を目指すことが求められる。 ③所有者からの修理の希望などを考慮し、より適切な年度に保存修理ができるよう丁寧な周知や説明をする必要がある。 ④埋蔵文化財包蔵地について、一部の事業者の理解が不足している。 ⑤調査結果により、今後の保護のあり方について検討する必要がある。 ⑥継続した取り組みを行う必要がある。 ⑦記録保存したデータについて、市民への周知や公開の方法を検討する必要がある。	①庁内関係者、地元、県茶業試験場、JA等との連携を強化し、土壌改良など樹勢回復に向けた中期的な取り組みを継続していく。 ②歴史や写真の展示など、公開整備の向上に努める。 ③伝建地区の保存活用についての理解を深めるために、毎年所有者から提出されるアンケートの内容などを掘り下げて、地区内の保存物件所有者への周知や理解の浸透を図る。 ④関係者と情報共有を図り、文化財保護や活用への理解が深まるよう努める。 ⑤調査診断結果に基づき、今後の保護のあり方を検討する。 ⑥今後も定期的な市民への周知に努める。 ⑦記録保存したデータについて、市民への周知や公開方法について検討する。
(3)文化の振興と環境づくり推進事業	B	・各種文化振興に関するイベントを通して、市民の文化振興への理解を深め、更に文化に対する意識の醸成を行う。 ・伝統芸能継承事業及び人づくり支援事業を活用し、嬉野に伝わる伝統文化の継承を図るとともに世代間交流に繋げることで、地域の伝統芸能の存続に寄与する。	・社会文化会館を拠点として、室内オーケストラや子ども向けのオペラなどの公演を実施した。 ・塩田地区、嬉野地区で地元の伝統芸能の歴史を学び、体験を通じて子どもたちに継承する事ができた。	・他の行事等と開催日が重なってしまう事があり、特にオーケストラの開催日が国民スポーツ大会と重なり集客が少なかった。 ・各地区の伝承芸能は後継者不足で存続が危ぶまれるものが発生してきている。	・本格的な公演や市民が楽しめる公演など魅力的な公演を企画するとともに、市のHPやSNS等を活用して周知を図っていく。 ・地域の伝承芸能については、高齢化や後継者不足など課題は多いが存続のための支援を継続していく。
(4)次世代を担う青少年の育成事業	B	・青少年の健全育成を目的とし、地域及び関係機関との連携を強化しつつ、さまざまな体験や学習を実施し、将来を見据えた人間性や人生における目標を見いだせるような事業実施により青少年の健全育成の向上を図る。 ・地域全体で子どもたちと関わりを持ち、世代を超えた交流の場を提供することで、放課後や休日に子どもたちが安全に安心して過ごせる居場所を設け、心の豊かさを醸成し生きる力を養う環境整備を推進する。	・子ども会連絡協議会では、地引き網体験や青少年育成会議と連携しマジックショー鑑賞会やアウトドア体験施設でのグループ活動で子どもたちが日常では味わえない体験をする事ができた。 ・放課後子ども教室では、子どもクッキングや季節の遊びを通じて子ども同士の交流を深め、囲碁教室では年代を超えた交流ができ、集中力や礼節を身に付けることができた。	・定着している地引き網体験だが、夏休み前の開催で梅雨でもあり天候に不安があるため、7月下旬の開催を検討したい。また、アウトドア体験も移動時間が長く現地での活動時間が限られる。	・特に対象となる小中学校のスケジュール確認を行い、少しでも多くの子どもたちが参加しやすいよう考慮する。 ・定着している行事だけでなく、新たな視点で参加しやすい行事を検討する。
(5)生涯学習のまちづくり推進事業	B	・生涯学習による生きがい、健康づくり、更には地域づくりに寄与するため、誰もが参加できる講座や教室の充実を図り、生涯学習への参加促進や継続的な学習活動へ繋げるための学習の機会を提供し生涯学習の推進を図る。 ・自主的なサークル活動や地域活動を促進するため、自治公民館への出前講座の内容や講師陣の充実に努め、寄り幅広い市民の学習活動の支援を推進する。	・高齢者教室の一般教養講座については、コロナ以降、収録によるテレビ放映となっているため、個々での視聴となっている。 ・文化連盟が主体となってサークル活動を実施している。公民館講座としては初心者教室を春・秋2回開催し、その後公民館教室での活動につなげている。自治公民館では出前講座それぞれ健康教室や佐賀にわか講師を派遣している。	・「かがやき大学」がテレビ放映のみとなっており、市民の反応や視聴者の数も分からない。老人会連合会との意見交換の際にはもっと面白いものをやって欲しいとの声もあがっている。 ・文化連盟の会員も高齢化が進み、活動を中止する会も出てきている。	・「かがやき大学」のあり方については、老人会連合会の意見を踏まえ、開催の回数や内容を検討していく。 ・市民に興味を持って参加してもらえる初心者教室や公民館教室のメニューを検討する。
(6)スポーツのまちづくり推進事業	B	・スポーツ推進委員や嬉野市スポーツ協会、総合型うれしのほほんスポーツクラブとの相互協力により、市民の体力向上と子どもから大人までスポーツに親しむことができる生涯スポーツの普及を図るため、各種大会や体力測定等の事業を実施する。 ・スポーツイベント等の実施により、スポーツをする楽しみ、見る楽しみへと繋げる機会を作ることとスポーツへの関心を高める。また、イベントに併せて、観光関係機関と連携しながら嬉野市の魅力発信によりスポーツツーリズムの振興に努め、宿泊施設をはじめとした市全体への経済効果の拡大を図る。 ・嬉野総合運動公園やリパティ、中央体育館等の体育施設のハード面の充実を図るとともに、市民が気軽にスポーツに取組める仕組みづくりとしてソフト事業の充実を図り、環境づくりに努める。	・市民の体力づくりを推進するため、スポーツ推進委員が各地区のスポーツ部長を対象としたNewスポーツ教室を春・秋の2回開催することができた。また、体力向上を目的として市民体力測定を実施した。 ・ミズノとの連携事業として、プレイサーカスを実施。幼児の基本動作を遊びながら身に付ける事業を実施。親子で遊びながら動作を身に付けることができる。 ・スポーツだけでなく、屋内、屋外のあらゆる活動において役立つ心配蘇生法の講習会を実施した。	・いろいろな世代へスポーツへのかかわりを持ってもらうためPRが必要であるが、なかなか決め手がなく苦慮している。 ・スポーツをするだけでなく、見る楽しみにつなげるために、プロスポーツ等との連携協定を活用しての事業展開が必要である。	・最初は少ない参加者であっても、単発的なイベントにせず回を重ねるごとに参加者が増えていくよう事業内容の充実を図りながら事業を実施していく。 ・広報手段を幅広くするために、SNSを積極的に活用したPRに取組む。

評価委員からの指摘事項・意見	評価結果(段階)
○ 嬉野市ならではの歴史的、文化的、人的な資源を効果的に活用し、昨年度の指摘事項を踏まえた改善策を適宜講じるとともに、各取組の一層の充実や他自治体で発生した事業を踏まえた迅速な対応に努めるなどの取組により、6つのプロジェクトを計画的かつ効果的に実施し、昨年度以上の成果を上げることができている。 このような取組実績に加え、 ・本物に触れることができるイベント等の機会を市民に確実に提供するための庁内各部局各課との連絡調整及び連携 ・イベント参加者へのアンケート調査実施や開催場所及び期日の弾力的な検討、周知対象の焦点化など参加者増を図るための取組の一層の工夫 ・「かがやき大学」の対面とテレビ放送によるハイブリッド実施の検討 【戸外での交流を希望するニーズへの対応及び独居高齢者の閉じこもり防止策の一つとして期待できる】 ・新たな取組に伴う職員の負担増解消のための市民の声を踏まえた事業の適切なスクラップ・アンド・ビルドを図ることで、更なる成果や実績を上げることができるものと考える。	A



指摘を受けての改善点
【本物に触れることができるイベント等の機会を市民に確実に提供するための庁内各部局各課との連絡調整及び連携】 ・(文化スポーツ推進課)文化振興事業において実施する各種文化・芸術イベントで、そのような機会創出ができればと考える。また、スポーツ振興事業で実施する県内プロスポーツチームとの交流事業においては、トップアスリートとの交流の場を設けるよう計画を進めている。その他、庁内各部局課との連携により、同様の機会創出を検討していきたい。 ・(文化財グループ)国指定重要文化財である西岡家住宅については、現在は日曜・祝日および事前予約に応じて随時開放し、塩田津のガイド部等による来訪者への案内が行われている。また、旧下村家も町並み保存会事務局の開所日に合わせて公開している。さらに、塩田小学校の児童が西岡家住宅で「よかとこまつり」の発表を行うなど、文化財に触れる場の提供はなされており、今後も地域との連携を図りたい。 【イベント参加者へのアンケート調査実施や開催場所及び期日の弾力的な検討、周知対象の焦点化など参加者増を図るための取組の一層の工夫】 ・(文化スポーツ振興課)イベント参加者に対するアンケートは、事業の効果検証のためにもぜひ実施していきたい。イベントの開催場所や日程については、多くの方が参加しやすい日時や場所の選定を心掛けたい。広報についてもHP、SNS、市民へのチラシ配布だけでは限界があるため、子ども対象のイベントの場合は学校や保育園・幼稚園等の協力を得ながら周知に努めたい。 ・(図書館グループ)図書館利用促進のために、図書館内のイベントや利用に関してアンケート調査を行い、より良い運営を目指す。 【「かがやき大学」の対面とテレビ放送によるハイブリッド実施の検討】 ・(文化スポーツ振興課)嬉野市と共催者である嬉野市老人クラブ連合会(市老連)と協議を行ったが、対面方式だと参加者の会場までの移動方法や集客に課題があるため、市老連の意向により今後はテレビ放送のみとし、3ヶ月に一度実施するという結論に至っている。今後継続して協議していきたい。 【新たな取組に伴う職員の負担増解消のための市民の声を踏まえた事業の適切なスクラップ・アンド・ビルド】 ・(文化スポーツ振興課)優先順位を十分に考慮したうえで適切なスクラップ・アンド・ビルドを行い、効率的に業務が遂行できるよう職員のスキルアップと業務改善を図ることが必要と考える。 ・(文化財グループ)職員研修機会の確保、休暇取得の促進をしながら、限られた職員数で事業の円滑な遂行を図るために全ての事業を前年踏襲するのではなく、中長期計画に基づく見通しをたてながら、必要な予算等を確保したい。

評価 4 段階	A	達成(80%以上)
	B	ほぼ達成(51～79%)
	C	やや不十分(50～21%)
	D	不十分(20%以下)